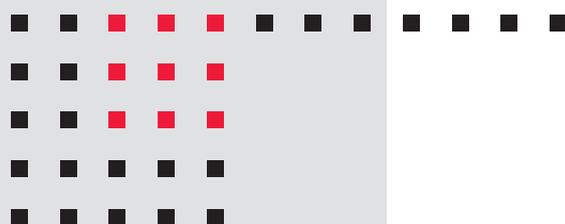
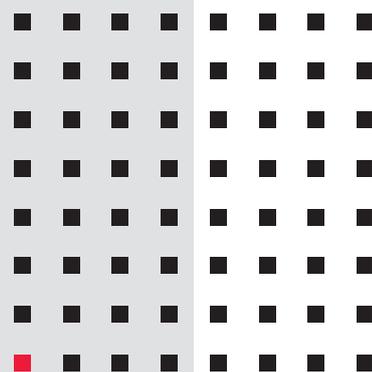


2018

FUJIFILM SQUARE



フジフィルム スクエア
2018年度 活動報告書

フジフィルム スクエア
2018年度 活動報告書

ご挨拶

「FUJIFILM SQUARE(フジフィルム スクエア)」は、富士フィルム株式会社東京ミッドタウン(東京都港区)本社にある複合型ショールームです。優れた写真作品の発表の場「富士フィルムフォトサロン」、写真の歴史とカメラの進化を学べる「写真歴史博物館」、最新の写真関連商品を試せる「タッチ フジフィルム」、プレミアムデジタルカメラ「GFX・Xシリーズ」の作品展示スペース「ギャラリーX」、化粧品・サプリメントなどの当社ヘルスケア商品を取り揃えた直営店「ASTALIFT ROPPONGI(フジフィルム ヘルスケアショップ)」で構成されています。

当社は創業以来「写真文化」の発展のため、写真の素晴らしさ、楽しさ、感動、そして写真を残す大切さを一貫して伝えてきました。1957年には、富士フォトサロンを銀座に開館。2000年代以降、急激なデジタル化により、写真フィルムの需要が急減し、業界全体が大きな岐路に立たされた時も、当社は「写真文化を守り、育てる」ことを改めて決意し、写真事業の存続を宣言しました。2007年には、東京ミッドタウンへの本社移転と同時に、「富士フィルムフォトサロン」に「写真歴史博物館」等を併設し、年中無休^{※1}・入場無料で、いつでも写真作品などの展示を楽しめる複合型ショールーム「フジフィルム スクエア」としてオープンしました。また、2014年には創立80年を機に、幕末・明治から現代に至る日本の写真史を飾る101人の作家の選りすぐりの1枚を収蔵した、「フジフィルム・フォトコレクション」を創設。フジフィルム スクエアをはじめ、全国の美術館での展示を通し、その芸術的価値をお伝えすると共に、日本写真史の体系的な理解に役立てていただいています。「フジフィルム スクエア」は、2007年の開館以来2017年度までに延べ約1,300本写真展を開催し、600万人におよぶ方にご来館いただきました。

2018年度は、時代を超える価値を持つ写真作品をはじめ、現代の写真家が写真に込めたメッセージをお伝えする作品や、新たな時代を担う若手写真家の作品など、バラエティ豊かな79本の写真展を開催し、60万人におよぶ幅広い年代の方にご来館いただきました。また、展示だけでなく、作品を解説するギャラリートークなどのイベントも開催し、1万3千人超の方々に参加していただきました。参加者からは、「作品に対する理解が深まる」と、毎回好評を得ました。また、公益社団法人企業メセナ協議会^{※2}主催の「メセナアワード2018」において、優秀賞「瞬間の芸術賞」を受賞しました。①「富士フィルムフォトサロン」の運営、②「写真歴史博物館」の運営、③「フジフィルム・フォトコレクション」の収蔵・展示の3つの総合的な活動が評価されたものです。

フジフィルム スクエアは、プロ、アマチュアの写真家の皆様の作品を、「奥行き感、空気感、色の深み、豊かな色彩」を持つ銀塩プリントで仕上げ、展示しています。そして、来館し、作品の前に立つ人に、「その作品を撮影した写真家の心に思いを馳せ、写真を鑑賞する喜び」を味わっていただいています。このように、フジフィルム スクエアはプリント作品を介して撮った人と見る人が心と心でつながる場です。

富士フィルムは、写真のリーディングカンパニーとして、プリントだからこそ伝わる真の写真の価値を発信し続け、「写真文化」の新たな発展と、より心豊かな社会の実現のために貢献していきます。

※1 年末年始を除く

※2 企業による芸術文化支援(メセナ)活動の活性化を目的に1990年に設立された、日本で唯一のメセナ専門の中間支援機関

CONTENTS

企画写真展レポート

FUJIFILM SQUARE 企画写真展

- 01 「138億光年 大いなる宇宙の旅」～NASA60周年 天体写真ベストセレクション～ …… 08
- 02 「アメリカ近代写真の至宝 ギルバート・コレクション展」 …… 10
- 03 竹内敏信写真展「日本の桜」NIPPON-NO SAKURA …… 12
- 04 40年間ありがとうございました。女優「樹木希林」さん 写真展 …… 14
- 05 暮らしの中にある“鳥風景” 菅原貴徳「SNAP! BIRDS」 …… 15
- 06 オシャレじゃなければシャッターは押さない! 保坂さほ写真展<GIRLS in Tokyo> …… 16

富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト[写真家たちの新しい物語]

- 07 吉永陽一写真展「いきづかいーいつもの鉄路」 …… 17
- 08 高須 力写真展「夢を跳ぶ。寺島武志、セパタクローに生きる」 …… 18

当社共催・協力写真展

- 09 「全国高等学校野球選手権大会100回史」刊行記念
「夏の甲子園 名勝負・名選手」写真展 …… 19
- 10 KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 SPECIAL EDITION
TOKYOGRAPHIE オープニングプログラム …… 20

FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展

- 11 「昭和が生んだ写真・怪物 時代を語る林忠彦の仕事」 …… 21
第1部 激動の昭和をフィルムに写し込んだ
第2部 日本文化の原風景をフィルムに写し込んだ
- 12 「言葉を超えた写真家 富山治夫『現代語感』」 …… 22
- 13 「色彩の写真家(たびびと) 前田真三 出会いの瞬間をもとめて」 …… 23
第1部 「ふるさと調の時代」
第2部 「丘の時代」
- 14 「色彩の聖域 エルンスト・ハース ザ・クリエイション」 …… 24

1

2

写真展開催リスト

当社主催企画展13本、当社主催・共催・協力写真展12本、公募展54本、合計79本

3

施設概要レポート

…… 29

4

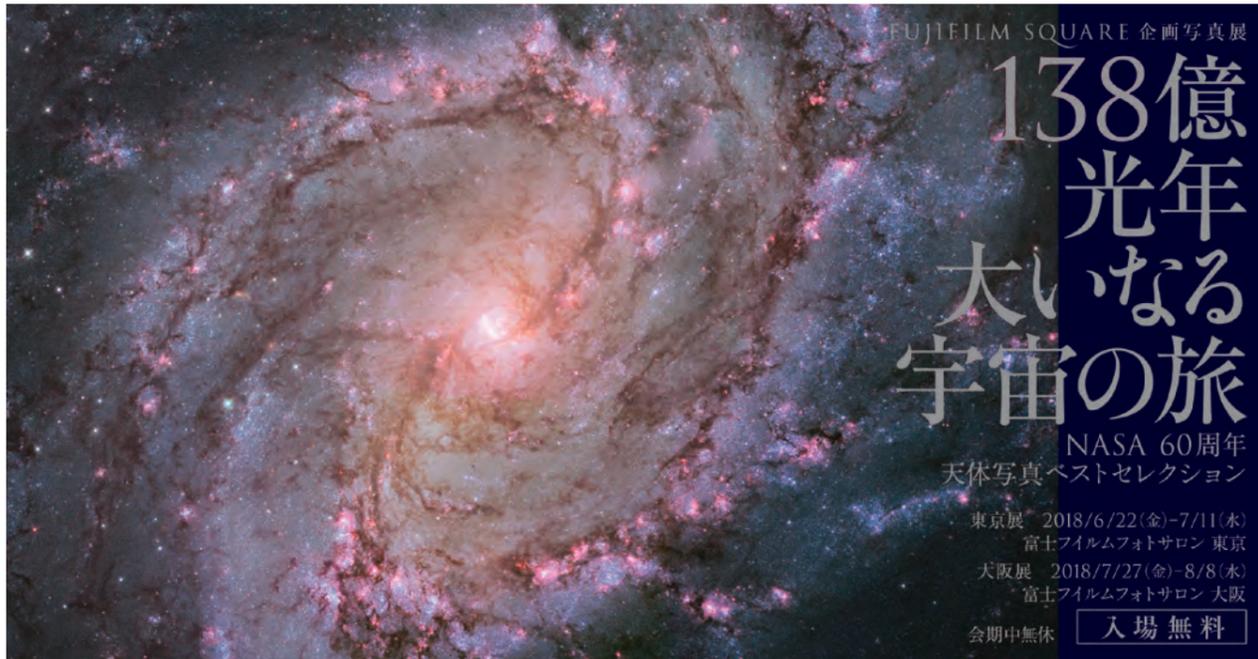
施設案内

…… 32

138億光年 大いなる宇宙の旅

NASA60周年 天体写真ベストセレクション

2018年6月22日～7月11日
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・スペース2・ミニギャラリー



展示概要

1958年に設立されたNASA(米国航空宇宙局)。アポロ計画、スペースシャトル計画、国際宇宙ステーション計画などの有人宇宙開発、また、地球や太陽系、宇宙の観測などの科学的な観測においても偉大な功績を残してきました。NASA創設から60周年を迎える2018年に開催した本展では、NASAの惑星探査機や宇宙望遠鏡などがとらえてきた膨大な画像アーカイブの中から、全体を大きく2つのパートに分け、美しく壮大な画像を選びご紹介しました。

第1部 太陽系の天体では、さまざまな惑星探査機や観測衛星によってもたらされた目覚ましい成果の数々に加え、国際宇宙ステーションなどから見た地球の姿も含めて取り上げました。土星探査機カッシーニ、木星探査機ジュノー、火星探査車キュリオシティなど、近年話題となった探査機をはじめ、数多くの探査機や観測衛星がとらえた天体の姿を展示しました。

第2部 NASAの宇宙望遠鏡群によって観測された天体画像では、恒星の誕生や死に関係する美しい星雲や、多くの恒星が集団をなす星団、さまざまな形の銀河、銀河の集団である銀河団……。それらの天体を、可視光や赤外線、X線などでとらえた画像を展示しました。

展示作品点数

97点

クレジット

主催:富士フィルム株式会社
監修:大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台 副台長 渡部潤一
協力:大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台
企画制作:株式会社クレヴィス
企画協力:サイエンスライター 岡本典明
後援:港区教育委員会
デザイン:クレヴィス
プリント制作:プロラボ クリエイト

併催イベント

- サイエンスライター 岡本典明氏(本写真展企画協力)による記念ギャラリートーク
2018年6月23日(土) 11:00～11:40/13:00～13:40
2018年6月24日(日) 14:00～14:40/17:00～17:40
- 国立天文台 副台長 渡部潤一氏による記念講演会
2018年7月1日(日) 13:30～15:00
- 国立天文台 副台長 渡部潤一氏・タレント 黒田有彩氏による記念トークイベント
2018年7月7日(土) 13:30～15:00
- フジフィルム スクエア コンシェルジュによる写真展解説
会期中毎日 14:00～14:40/17:00～17:40
※6月24日(日)以外
※6月23日(土)・7月1日(日)・7日(土)は17:00～17:40のみ開催。

販売物

[138億光年 宇宙の旅](株式会社クレヴィス)

主要メディア掲載

- 新聞
神戸新聞夕刊(神戸、6月19日)、東京新聞夕刊(東京、6月23日)
- 写真・カメラ紙(誌)
コマーシャルフォト(7月号)、週刊カメラタイムズ(6/19・6/26号)、アサヒカメラ(7月号)、日本カメラ(7月号)、カメラマン(7月号)、CAPA(7月号)、フォトコン(7月号)、デジタルカメラマガジン(7月号)、フォトテクニックデジタル(7月号)、風景写真(7・8月号)
- その他雑誌
Newton(7月号)、週刊文春(6/14号)、週刊東洋経済(6/23号)、日経サイエンス(6/25号)、週刊新潮(6/28号)
- ウェブサイト
Yahoo! ニュース ほかに

ご来館者数

合計41,771人(20日間)

実施レポート

衛星がとらえた地球から始まり、近年探査機が接近して撮った太陽系の惑星から、宇宙望遠鏡がとらえた星雲、星団や銀河系の姿、さらには130億光年を超える先まで、宇宙の神秘を美しく表現する色鮮やかな大型銀塩プリントを、壁面、床面、宙づりとふんだんに使ったダイナミックな写真展としました。

会期中、写真展全体の監修をしていただいた国立天文台渡部潤一副台長には、スクエア特設会場にて記念講演会とタレント黒田有彩氏とのトークイベントの2度にわたりご登壇いただき、楽しくわかりやすい天文のお話をいただきました。また、企画にご協力いただいたサイエンスライターの岡本典明氏には計4回のギャラリートークを開催していただきました。そして館内スタッフのコンシェルジュは宇宙望遠鏡の画像のしくみも含め、写真展の解説を毎日行いました。さらに、館内に天体観測にも使われている当社製大型双眼鏡を展示し、写真展のダイジェスト解説リーフレットやデジカメで星空を撮影する「かんたんガイド」も配布し、初めて天体写真に接する方にも写真展をより深く理解していただくお手伝いをいたしました。

おりしも、火星の大接近や大砂嵐、はやぶさ2のリユウグウ探査の年にあたり、七夕や流星など天文ショーが目白押しのタイミングだったこともあり、1日あたり2,000人を上回る多くの方にご来館いただき、館内のアンケート(N=1,423)では、よかったと答えた方が94%と大変好評でした。「あまりの美しさに息をのんだ」「こんな素晴らしい画像を大パネルで観られてとても幸せでした」「もっと宇宙のことが知りたい」など写真や天体の愛好者だけでなく、ミッドタウンを訪れた幅広い年齢、プロフィールの方々に宇宙の写真をお楽しみいただきました。NASA設立60周年にあたる年に、美しく壮大な映像による視覚的なインパクトから知的好奇心や宇宙の深淵への探求心を育む、NASAの試みを体感していただく機会をご提供しました。

ご来館者様の声

大きな写真が迫力があつた。宇宙の無限の広がりやに吸い込まれそうだった。

写真の解説がとてもわかりやすかつた。来て良かったです。

学びの場だと思いました。また来たいと思いました。

なかなか普段見られない写真が沢山あり、感動しました。

写真が驚くほどきれいだった。

見たことの無い光景を真近に見られ、写真のパワーに圧倒されました。

宇宙について興味が湧きました。星の写真が撮りたくなりました。

子供も夢中になって、大変良かったです。美しさに、引きこまれました。

家族にも見せたいです。

宇宙の写真が圧巻でした。

宇宙の神秘を感じました。

壮大な写真で、見たこともない知らない世界を見た気がしました。

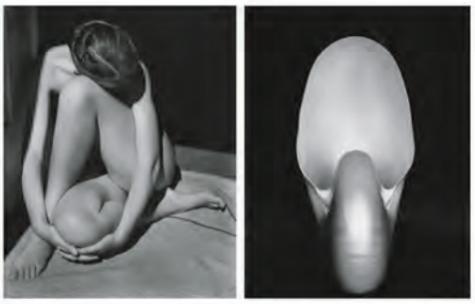


アメリカ近代写真の至宝 ギルバート・コレクション展

2018年11月9日～11月28日
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・スペース2

FUJIFILM SQUARE 企画写真展

アメリカ近代写真の至宝 The Gilbert Collection ギルバート・コレクション展



©Center for Creative Photography, Arizona Board of Regents

写真表現の源流は、
ここに
ある。

アンセル・アダムス
ウィン・パロック
ハリィ・キャラハン
イモージェン・カニンガム
アーロン・シスキン
アルフレッド・スティーグリッツ
ポール・ストランド
ブレット・ウェストン
エドワード・ウェストン
マイナー・ホワイト

2018年
11月9日(金)～11月28日(水)
会期中無休・入場無料
10:00～19:00 (入場は閉館10分前まで)

主催/富士フィルム株式会社
特別協力/京都国立近代美術館
後援/港区教育委員会
企画/フォトクラシック

FUJIFILM SQUARE

ギルバート・コレクションとは

ギルバート・コレクションは、米国シカゴ在住のアーノルド&テミー・ギルバート夫妻が約20年間にわたり収集した世界屈指の写真コレクションです。1986年、その膨大な写真コレクションの中から精選された1,050点が京セラ株式会社によって購入され、日本初の大規模な写真コレクションとして京都国立近代美術館に寄贈されました。同コレクションの最大の特徴は、1930年代から50年代のいわゆる近代写真の巨匠たちによる充実した作品群にあります。また、ニュー・パウハウス(シカゴ・インスティテュート・オブ・デザイン)の写真家たちによる作品を豊富に有している点においても特に優れており、内容、質ともに大変価値の高い写真コレクションとなっています。

出展写真家

アンセル・アダムス、ウィン・パロック、ハリィ・キャラハン、イモージェン・カニンガム、アーロン・シスキン、アルフレッド・スティーグリッツ、ポール・ストランド、ブレット・ウェストン、エドワード・ウェストン、マイナー・ホワイト

展示作品点数

71点

クレジット

主催:富士フィルム株式会社
後援:港区教育委員会
特別協力:京都国立近代美術館
企画:フォトクラシック
デザイン:脇野直人

併催イベント

- ・ 牧口千夏氏(京都国立近代美術館 主任研究員)によるギャラリートーク
2018年11月17日(土) 14:00～ / 16:00～ (各回ともに約30分)
- ・ 高橋則英氏(日本大学芸術学部写真学科教授)によるギャラリートーク
2018年11月24日(土) 14:00～ / 16:00～ (各回ともに約30分)
- ・ フジフィルム スクエア コンシェルジュによる写真展解説
会期中毎日 14:00～14:40 / 17:00～17:40 ※11月17日(土)、24日(土)以外

販売物

『写真』(京都国立近代美術館 所蔵作品目録)
アンセル・アダムス 2019年カレンダー
『Realities & Metaphors』『Wynn Bullock 55』(ウィン・パロック)
『Selected texts and bibliography』『Potraiture』『Photographs』(イモージェン・カニンガム)
『In Focus』(ポール・ストランド)
『Voyage of the Eye』(ブレッド・ウェストン)
『In Focus』『The Last Years in Carmel』(エドワード・ウェストン)

主要メディア掲載

- ・ 新聞
日本経済新聞(東京、11月10日)、日本経済新聞(大阪、11月10日)、読売新聞夕刊(東京、11月10日)、読売中高生新聞(11月9日)
- ・ 写真・カメラ紙(誌)
アサヒカメラ(11月号)、フォトテクニックデジタル(11月号)、カメラマン(11・12月号)、CAPA(11・12月号)、フォトコン(11月号)、デジタルカメラマガジン(11・12月号)、風景写真(11・12月号)、コマースフォト(12月号)
- ・ ウェブサイト
infoseekニュース、Response、SankeiBiz、SANSPO.COM、ZAKZAK、インターネットコム、エキサイトニュース、朝日新聞デジタル&M、毎日新聞、東京新聞、Yahoo! ニュース ほか

ご来館者数

合計42,409人(20日間)

展示概要

現代の写真表現は、1900年代にアルフレッド・スティーグリッツが提唱した「ストレート・フォトグラフィー」を出発点の一つとしています。絵画的表現から分離し、レンズの直截な描写を生かす写真独自の芸術を求めようとしたこの潮流は、フォト・セセッション(写真分離派)を中心として始まり、現在も世界中で発展しつづけるすべての写真表現の源流の一つを成したと捉えることができます。アメリカではその後、1932年にエドワード・ウェストンやイモージェン・カニンガム、アンセル・アダムスらによって「グループf.64」が結成され、ストレート・フォトグラフィーの美学がプリント作品として極められていきました。そして、1940年代、50年代に入ると、彼らと後進の写真家たちによって、アメリカの写真は自然や宇宙、人間の営みをも示唆する精神性に満ちた独自の写真表現へと進化していきました。

本展は、京都国立近代美術館の協力を得て、同館所蔵の写真コレクション「ギルバート・コレクション」より、「近代写真の父」と称されるアルフレッド・スティーグリッツをはじめ、イモージェン・カニンガム、エドワード・ウェストン、アンセル・アダムス、ハリィ・キャラハンら、アメリカ近代写真を代表する10人の写真家たちによる珠玉の写真作品、71点を一堂に展示しました。

実施レポート

2017年度に開催した「アンセル・アダムス展」に続き、京都国立近代美術館所蔵「ギルバート・コレクション」より作品をお借りして展示しました。

アルフレッド・スティーグリッツの「三等船室」を筆頭に、一般には鑑賞のチャンスが限られている貴重なヴァンテージプリントを含むオリジナルプリント71点をご紹介しますことができました。

展示は、アメリカ近代写真史の変遷を展覧する構成としました。「近代写真の父」と呼ばれるアルフレッド・スティーグリッツが提唱したストレート・フォトグラフィー理念に共感した、エドワード・ウェストンやイモージェン・カニンガム、アンセル・アダムスらの「グループf.64」他、10人の作品を通して、写真が絵画的な表現方法から分離し、レンズの直截な描写を生かした独自の芸術として確立していく歴史を展示や配布資料で伝えました。アメリカ近代写真を象徴する10人の写真家たちが互いに影響しあいつつも、それぞれが独自の表現を確立していることを感じられる展示をじっくりと鑑賞する来館者が多く、会場は重厚な雰囲気になりました。

期間中には、同美術館主任研究員牧口千夏氏と、日本大学芸術学部写真学科教授高橋則英氏をお招きしてのギャラリートークを開催しました。各々100名以上が参加して、同コレクションと近代写真史の理解を深めました。「オリジナルプリントの質感に思わず息をのみます」「写真とは、という原点に帰って考えさせられる」「写真に関する仕事の業界の人は見ておいた方がよい」など、写真に造詣の深い方々や写真学会・写真関係者に加え、写真を学ぶ学生の皆さんからも驚嘆の声が寄せられる写真展となりました。写真が銀塩からデジタルに移行し、写真表現が多様になった現代、写真表現の本質とは何か、これからの時代における写真の可能性がどこにあるかを問い直す機会となりました。



ご来館者様の声

- 最高でした!展示もキャプションの内容も!
- ギルバート・コレクション展、楽しみにしていたので、見にうかがえて嬉しかったです。素敵でした!
- 素晴らしい企画展でした。またうかがいたいです。
- 写真、モノクロ、の描写力に感銘を受けました。
- コンシェルジュの詳しい解説をうかがって写真を拝見すると見えなかったものが見え視野が広がったと思います。ありがとうございました。
- 初めて見る作家で面白い作品があり、良かった。
- アンセル・アダムスの写真は何度も見たくります。
- よい展示の企画ありがとうございます。
- すべてのコーナーの展示が充実していて良かったです。
- 気軽に写真展が見られて 良い時間が過ごせました。
- このような写真展をまた開催してほしい。
- 写真展最終日に間に合って良かったです。

竹内敏信写真展「日本の桜」 NIPPON-NO SAKURA

2019年3月15日～4月3日
富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1・スペース2・ミニギャラリー

主催 ■ 富士フィルム株式会社 企画 ■ 株式会社アイ・イメージング・フラッグ
協力 ■ 株式会社TAフォト&サウンドオフィス 後援 ■ 港区教育委員会

© Takeuchi Toshinobu 撮影地: 久米町 (旧久米町)

2019年3月15日(金)～4月3日(水)
10:00～19:00 [入館は終了10分前まで] [入場無料/会期中無休]

「春になると、毎年毎年、まるで病気になるように桜を求めて旅をしてきた。桜力が宿ってしまったのではなかろうか。」

「春になると、毎年毎年、まるで病気になるように桜を求めて旅をしてきた。桜力が宿ってしまったのではなかろうか。」

展示概要

今回の写真展は、2018年の岡崎市美術館への作品寄贈を機に、竹内敏信氏の数えきれない風景写真アーカイブの中から、氏がこよなく愛して止まない「桜」を取り上げ、その作品のすばらしさを味わいながら、同時に日本の写真界で成し遂げられてきた偉業を再確認する写真展です。今までに発刊した数々の写真集『櫻』『櫻暦』『山櫻』『一本櫻百本』などから選ばれたベストセレクションに、未発表作、新作を追加して展示しました。

氏の写真のスタートは美しい自然環境の破壊への警鐘を鳴らすポルターージュ写真であり、その写真の根底にあるのは、一貫して「日本人が太古より見てきたであろう、日本の原風景」を求める心です。その原風景を求めて、北は北海道、南は八重山諸島まで四季を問わず撮影旅を続けてきました。

その中でも桜は「春になると、毎年毎年、まるで病気になるように桜を求めて旅をしてきた。桜力」というか「桜霊力」が宿ってしまったのではなかろうか」と氏が語るように、特別な被写体だったようです。

まるで時が用意したかのごとく登場したオートフォーカス一眼レフと性能が向上する望遠ズームレンズの機動力と、同時期画期的な表現を可能にした当社のフジクロームVelviaを掌中とした竹内氏は、80～90年代、大判・中判カメラを使って古典的なスタイルを貫いてきた日本の風景写真に、新風を吹き込んだパイオニアです。

かつてアシスタントとして師事し、現在それぞれの地位を確立しつつある写真家が全面的にバックアップした写真展となりました。

展示作品点数

69点

クレジット

主催: 富士フィルム株式会社
企画: 株式会社アイ・イメージング・フラッグ
協力: 株式会社TAフォト&サウンドオフィス
後援: 港区教育委員会
デザイン: gA office
プリント: プロラボ クリエイト

併催イベント

- ・ ギャラリートーク「師匠と歩いた桜の道」
2019年3月16日(土) 写真家 井村 淳氏 / 2019年3月17日(日) 写真家 工藤 智道氏 / 2019年3月23日(土) 写真家 古市 智之氏 / 2019年3月24日(日) 写真家 秦 達夫氏 / 2019年3月31日(日) 写真家 福田 健太郎氏
(各日 ①14:00～14:40 ②16:00～16:40)
- ・ フジフィルム スクエア コンシェルジュによる解説「竹内作品とフジクローム ベルビア」
会期中の平日(月～金) 14:00～14:40 (毎回同内容) ※3月21日(木・祝)以外
- ・ トークイベント「竹内一門 おおいに師匠を語る」
2019年3月21日(木・祝) 14:30～16:00
ゲスト 写真家: 古市 智之氏・佐々木 啓太氏・井村 淳氏・清水 哲朗氏・秦 達夫氏・阿南 一夫氏・種清 豊氏 司会: フォトコーディネーター 石田 立雄氏

販売物

「日本の桜」(株式会社クレヴィス)

主要メディア掲載

- ・ 新聞
東京新聞(東京、3月14日)、産経新聞(東京、3月15日)
- ・ 写真・カメラ紙(誌)
コマース フォト(3/15)、アサヒカメラ(3/20)、カメラマン(4月号)、デジタルカメラ マガジン(4月号)、CAPA(4月号)、フォトコン(4月号)、日本カメラ(4月号)
- ・ その他雑誌
週刊新潮(3/28号)
- ・ ウェブサイト
Yahoo!ロコ、goo ニュース、47NEWS、infoseekニュース、ZAKZAK、インターネットコム、エキサイトニュース、毎日新聞、LINE NEWS、グノシー ほか

ご来館者数

合計34,596人(20日間)



竹内敏信

実施レポート

今回の展示作品は、竹内氏がまさに憑かれたかのように毎年追いつけた膨大な作品群から、改めて自身が時間と精力をかけてセレクトした桜作品の集大成です。日本人の心の原風景としてとらえた竹内流の桜が、改めて大型の銀塩カラープリントに命を吹き込まれ、観るものの胸を突き動かしました。「すばらしい!日本の桜を見つけた気がしました」「良い展示でした、改めて写真の良さを実感しました」「すごく鮮明な写真でまるで本物を見ているような気分がした。桜の美しさを改めて実感した」

そして氏のもう一つの偉業は、自らが指導育成された何人もの後進が、現在写真家として写真界を牽引していること。その「門下」の写真家の皆さんが、多忙の中間を融通しあい、会期中日替わりで写真展に在廊された姿には、師弟関係を越えた深い絆を感じる写真展となりました。会期中の3月21日(木・祝日)には、古市 智之・佐々木 啓太・井村 淳・清水 哲朗・秦 達夫・阿南 一夫・種清 豊の7人の写真家が登壇し、作品と師への想いを当時のエピソードを交えて語るトークイベントを開催、220人の竹内ファンが客席の竹内氏と一緒に話に聞き入りました。また、当日参加できなかった写真家福田健太郎氏も加え、交代で毎週末ギャラリートークを開催。会期の20日間計34,596人、平均1,730人/日の竹内ファンがつめかけました。「それぞれが楽しい思い出。竹内先生のお人柄がうかがえました。すばらしい方ですね。そして、すばらしい一門です。ありがとう」「師匠と弟子、弟子と弟子との良好な人間関係が手に取る様に感じとれました…参加して良かった!」「すばらしい師匠ですね。集まった若き助手たちを立派にプロ写真家として育てた功績は大きい」と、沢山の共感の声がよせられました。

また、会場にて販売した本写真展の図録「日本の桜」(株式会社クレヴィス刊)も大変好評でした。

1980年代に誕生した自動露出、自動焦点一眼レフカメラと品質の向上した望遠ズームレンズの機動性をいち早く自らの作品作りに取り入れ、黎明期だった当社のフジクローム(カラーリバーサルフィルム)Velviaを使いこなした風景写真に革命をもたらしたパイオニアであり、そして門下とともにプロのみならずアマチュアまで裾野広く写真撮影を普及することに尽力され、今日の日本の写真文化を育んだ竹内氏の功績を讃える写真展となりました。

ご来館者様の声

色々な桜を見て良かったです。

構図の凄さに圧倒されました。

まるで現地で本物を見ているような気分がしました。

一足早いお花見になりました。今年の桜がより楽しみになりました。

桜の写真に癒やされました。特に雪や雫がついた写真が素敵だと思いました。

季節にあった展示で、とても良かったです。

写真家の桜に対する心情が作品からにじみ出るようです。

桜の美しさを感じることができ、しあわせでした。

桜を撮りたくなりました。

春色に和みました。

トークイベントでは展示してある写真の背景を知ることができて良かった。

竹内先生に対するお弟子さんたちの愛情が感じられた。



40年間ありがとうございました。

女優「樹木希林」さん 写真展

2018年11月9日－11月29日
富士フィルムフォトサロン 東京 ミニギャラリー



富士フィルムの数多くの広告・テレビCMに、ご出演いただきました女優「樹木希林」さんの生前のご活躍に感謝申し上げる写真展を開催しました。

樹木さんには1978年から40年にわたって「お正月を写そう」「フジカラープリント」「写ルンです」「PHOTO IS」などの広告・テレビCMに、ご出演いただきました。

1980年の「フジカラープリント」のテレビCM「美しい人はより美しく、そうでない方はそれなりに」というご本人もアイデアを出されたフレーズは当時の流行語となるなど、樹木さんご出演のCMは常に注目を集め強いインパクトを残しました。

本写真展では、「あなたにとって写真とは」の問いに、ご自身の言葉で語っていただいた2006年のテレビCM「PHOTO IS」を中心に、デビュー当時から、人気ドラマの一コマ、2018年インタビューを受けられた際の写真までを展示しました。また、当社テレビCMの名シーンも、写真と動画でご紹介しました。写真展開催にあたっては、長年にわたり樹木さんを取材された複数の雑誌社にご協力いただきました。フジテレビFNNプライムニュース イブニング、読売新聞、産経新聞など多数のメディアに取り上げられ、多数の方がご来場され、写真を通じて「自然体を貫かれた樹木さん」、「沢山の方から愛され続ける樹木さん」を偲びました。



展示作品点数

20点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
協力：一般社団法人 日本雑誌協会、株式会社朝日新聞出版 写真部、株式会社講談社 写真部(写真提供：株式会社アフロ)、株式会社小学館「週刊ポスト」「女性セブン」、株式会社新潮社「週刊新潮」、株式会社スイッチ・パブリッシング「SWITCH」(写真提供：上田義彦写真事務所)
プリント制作：プロラボ クリエイト、写真弘社

主要メディア掲載

テレビ「FNNプライムニュース イブニング」(フジテレビ、11月9日)、インターネットテレビ「Abema morning」(AbemaTV、11月15日)、産経新聞(東京、11月10日)、朝日新聞夕刊(東京、11月14日)、読売新聞(東京、11月15日) ほかに雑誌、ウェブサイトなど多数

ご来館者数

合計44,167人(21日間)

ご来館者様の声

CMで見ていた樹木希林さんの別な面を見せていただきました。

家族写真を撮りたくなりました。

写真が綺麗で感激しました。

このような企画の展示を見ることができ、貴重な時間でした。

遠くからはるばる来た甲斐がありました。

貴重な展示を見ることができて心揺さぶられました。

暮らしの中にある“鳥風景”

菅原貴徳「SNAP! BIRDS」

2019年2月1日～2月14日
富士フィルムフォトサロン 東京 ミニギャラリー

子どものころから鳥に興味を持ち、大学院では海鳥の研究に従事した経歴を持つ写真家・菅原貴徳氏。

「大自然の中に生きる鳥の姿はもちろん魅力的ですが、身近にいる鳥の存在にも目を向けてもらえれば」と言う菅原氏が、「人の暮らしの中にある“鳥風景”」をテーマに構成しました。私たちと生活圏をともにする鳥の姿を、国内外それぞれの町の特長を背景に取り入れながらスナップ感覚でとらえた作品23点を展示した作品が共感を呼びました。大自然の中へ行かなくても、超望遠レンズがなくても誰でも気軽に楽しめる魅力的な「SNAP! BIRDS」の世界を展開した写真展となりました。



展示作品点数

23点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
企画：株式会社日本写真企画
デザイン：株式会社日本写真企画
プリント制作：プロラボ クリエイト

併催イベント

スライド上映による“鳥風景”の作品解説・撮り方レクチャー
2019年2月1日(金) 17:00～18:00
2019年2月2日(土) 13:00～14:00

販売物

「SNAP! BIRDS」(日本写真企画)

ご来館者数

合計19,618人(14日間)

ご来館者様の声

とても良い時間をいただきました。菅原氏とまた、お目にかかりたいです。

感動しました。鳥の一瞬の姿が生き生きしていました。

鳥の写真を見たいと思ってきました。素晴らしかったです。

素敵な空間で楽しめました。

作品が綺麗でした。

色合いが美しく、心が癒やされました。

オシャレじゃなければシャッターは押さない!

保坂さほ写真展 〈GIRLS in Tokyo〉

2019年3月1日～3月14日
富士フィルムフォトサロン 東京 ミニギャラリー



保坂さほ氏はアパレルショップ販売員を経て、32歳で突然カメラに目覚め、1年後には映画ポスターや全国誌の表紙を飾り、同時にフリーカメラマンとして独立した経歴を持つフォトグラファーです。写真スタジオ H.studioを経営し、ファッション業界で培ったセンスと独自の表現方法で人気を得、幅広く活躍しています。

本展は、保坂氏が、自身の世界観のパズルの一つとして「東京のオンナノコ」を最終的にはめて制作した作品、そして、「オシャレじゃなければシャッターは押さない」を大事にして撮影した作品を展示しました。

元々、古き良きアメリカンアンティークが好きだった保坂氏が、その空気感を突きつめながら時間をかけて作りこんだ世界観の魅力があふれる写真展となりました。

展示作品点数

25点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社・富士フィルムイメージングシステムズ株式会社
協力：株式会社H.office
デザイン：株式会社H.office
プリント制作：富士フィルムイメージングシステムズ株式会社

併催イベント

【保坂さほ流世界観の作り方】レクチャー
2019年3月1日(金) 11:00～12:00
2019年3月9日(土) 13:00～14:00

販売物

「販売員だった私が売れっ子フォトグラファーになるまで」(玄光社)

ご来館者数

合計20,231人(14日間)



ご来館者様の声

どれも素敵でずーっと見ていたいお写真でした。

パネルにプリントされた写真がどれもキレイでかわいかった。

キュートだったり、クールだったり、作品ごとの世界観を味わえてとても素敵でした。

さほさんの世界観を改めて再認識できて楽しかった。

写真を見てひとこと言うなら「オシャレ」。とてもよかったです。

イベントでは、さほさんの撮影の裏側を垣間見れた気がして有意義な時間でした。

吉永陽一写真展「いきづかいーいつもの鉄路」

2018年4月27日ー5月10日
富士フィルムフォトサロン 東京
スペース2


富士フィルムフォトサロン
若手写真家応援プロジェクト

【写真家たちの新しい物語】
吉永陽一写真展
いきづかい
ーいつもの鉄路



2018年4月27日(金)ー5月10日(木) 富士フィルムフォトサロン東京 スペース2
午前10時～午後7時(最終日午後4時まで・入場終了10分前まで) ギャラリートーク開催
主催:富士フィルム株式会社 後援:株式会社日本写真企画、港区教育委員会

「写真家たちの新しい物語」について

富士フィルムフォトサロン 東京は、若手写真家の皆様に写真展を行う意義や楽しみを見出していただき、写真文化の発展に繋げるため、2013年から年数回、公募展「写真家たちの新しい物語」を開催しています。当社は写真展を開催するためのプリントや制作費等を支援しています。「写真家たちの新しい物語」第13弾は吉永陽一氏、第14弾は高須 力氏の写真展を開催しました。

セスナ機やヘリコプターから鉄道風景をとらえた「空鉄(そらてつ)」で注目を集める吉永陽一氏。吉永氏は、「いつも暮らしのそばにある鉄道。しかし、その鉄道風景がいつまでもそこにあるとは限らない。廃線や廃車……。当たり前の日常は実は当たり前でないことに気がつく。」と言います。

本展は、「空と地上、二つの視点から“いつもの鉄路”を切り取った作品から特別ではない日々の大切さを感じてほしい」という吉永氏の思いのもとで企画を進め、吉永氏の代名詞ともいえる「空鉄」と、学生時代から二眼レフ中判フィルムカメラで丹念に撮り溜めてきた、6×6cmサイズの「日常の鉄道風景」のアンサンブルで構成しました。

駅のホーム、車窓からの眺め、淡い思い出、いつか見た風景……。

たんと流れる日々の暮らしの中で紡がれていく物語。それれ一つ一つに耳を傾け、そっと寄り添うようにシャッターを切る吉永氏の眼差しから、それぞれの物語を生きる人びとと鉄道の“いきづかい”が静かに伝わってくる写真展となりました。

展示作品点数

70点

クレジット

主催:富士フィルム株式会社
企画:株式会社日本写真企画
デザイン:株式会社日本写真企画
プリント制作:プロラボ クリエイト、フォトグラファーズ・ラボラトリー

併催イベント

吉永陽一氏によるギャラリートーク
2018年4月27日(金)・29日(日)・30日(月・祝)、5月4日(金・祝)・5日(土・祝)・6日(日)
(各日16:00～/30分程度)



販売物

「空鉄の世界」空から見つめた鉄道情景」(日本写真企画)

ご来館者数

合計21,203人(14日間)

ご来館者様の声

視点がユニークで面白かったです。

親しみを持ってました。今後も楽しみにしています。

開放的で素晴らしい。

高須 力写真展「夢を跳ぶ。寺島武志、セパタクローに生きる」

2018年9月28日～10月11日
富士フィルムフォトサロン 東京
スペース2

寺島武志、
セパタクローに生きる

高須 力
Tsutomu Takasu
写真展

夢を
跳ぶ。

富士フィルムフォトサロン 東京 スペース2
2018年 9月28日(金)～10月11日(木)
午前10時～午後7時 (最終日午後4時まで・入館終了10分前まで)

巡回展 富士フィルムフォトサロン 大阪
11月30日(金)～12月6日(木)
午前10時～午後7時 (最終日午後2時まで・入館終了10分前まで)

富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト【写真家たちの新しい物語】
主催：富士フィルム株式会社 後援：一般社団法人日本セパタクロー協会、株式会社日本写真企画、港区教育委員会

サッカーを中心にさまざまな競技を撮影しながら、ライフワークでセパタクロー日本代表を追いかけている高須氏。

東南アジア発祥のセパタクローは、バドミントンと同じ広さのコートにネットを張り、プラスチックで編み込まれたボールを足や頭で扱うスポーツで、激しいネット際の攻防から空中の格闘技とも呼ばれています。

高須氏は2004年にセパタクローに出会い、2013年からは寺島武志選手を中心に日本代表を追いかけ、競技だけでなくプライベートにも密着。

高須氏は、「第一線でアマチュアスポーツの競技が続けられる選手はほんの一握りであり、また、オリンピックでメダルに絡むレベルになれば陸上や競泳というメジャーなスポーツであっても、社会人で競技を続けることは困難な日本にあって、セパタクローに魅入られた選手たちは、なぜ競技を続けるのか」と問いかけながら撮影を続けてきました。今回の写真展は「セパタクローの競技としての魅力はもちろん、決して恵まれた環境ではない中で、好きなことに打ち込むことの尊さと厳しさ、仲間との絆、そして、家族の支え、という私が彼らから教えてもらったことに少しでも共感してほしい」という高須氏の思いがこもった内容となりました。

そして、写真展開催直前の9月、18回アジア大会に出場した日本代表は見事銀・銅メダルを獲得しました。そのメダルが会場に飾られた写真展会場では、青年たちの熱き物語のドラマ性と迫力が来場者の心を打ちました。



展示作品点数

25点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社
後援：一般社団法人日本セパタクロー協会
企画：株式会社日本写真企画
デザイン：株式会社日本写真企画
プリント制作：写真弘社

併催イベント

高須 力氏によるギャラリートーク
2018年9月28日(金) 17:00～
2018年9月29日(土)、2018年10月7日(日)・8日(月・祝) (各日15:00～)
※各日約30分 ※ 寺島武志選手にご来場いただきました。

販売物

「夢を跳ぶ。」寺島武志、セパタクローに生きる」(日本写真企画)

ご来館者数

合計19,587人(14日間)

ご来館者様の声

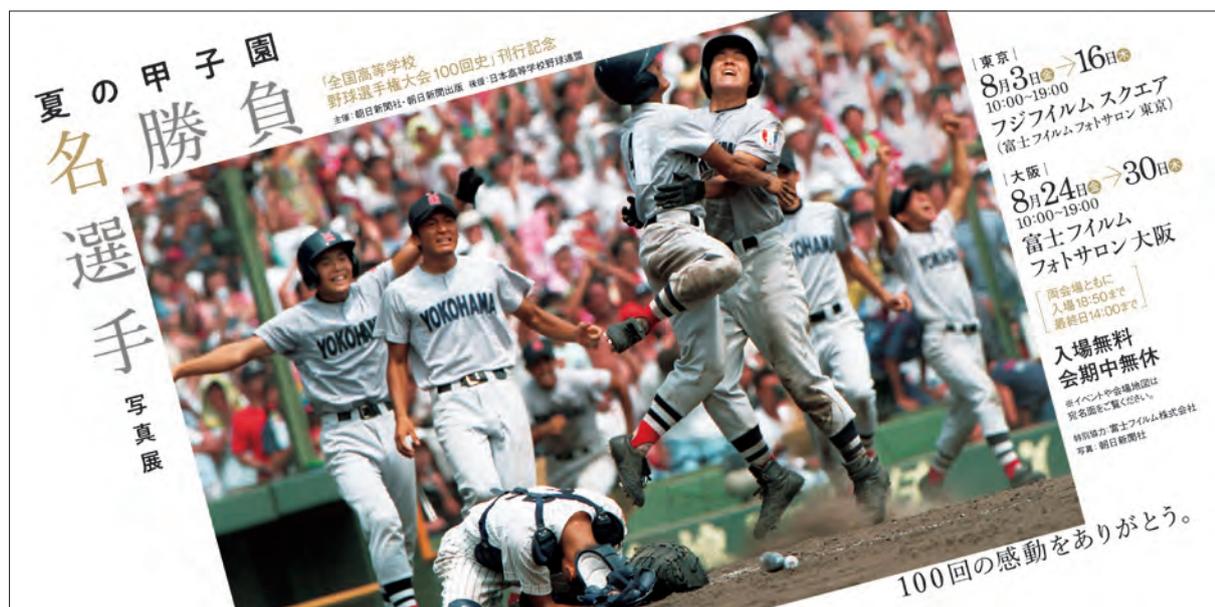
セパタクローの選手の想いが伝わってきました。

セパタクローの迫力を感じる力強い写真でした。

楽しかったです。また来たいと思います。

『全国高等学校野球選手権大会100回史』刊行記念

「夏の甲子園 名勝負・名選手」写真展

2018年8月3日～8月16日
富士フィルムフォトサロン 東京
スペース1・スペース2・ミニギャラリー

全国高等学校野球選手権大会は、1915年8月に前身となる全国中等学校優勝野球大会が開かれてから、2018年で100回の節目を迎えました。戦争による中断や大きな災害なども乗り越えて、たくましく続けられてきました。

この大会の根底にあるのは、「学校教育の一環」として、野球というスポーツを通して体力や技術だけでなく「礼儀やフェアプレー精神」などを養い、未来を担う立派な若者を育てたいという考え方です。100回で約3400もの試合が主に兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で行われ、甲子園を目指す地方大会では、約25万にも迫る試合が繰り広げられてきました。

記念すべき第100回の年に開催した本写真展は、その3400試合の中から語り継がれる「名勝負」と、今も輝き続ける「名選手」の2つのテーマで構成されました。

展示作品点数

150点

クレジット

主催：株式会社朝日新聞社・株式会社朝日新聞出版

特別協力：富士フィルム株式会社

後援：日本高等学校野球連盟・港区教育委員会・大阪市教育委員会

デザイン：FROG KING STUDIO

プリント制作：プロラボ クリエイト

併催イベント

夏休み特別イベント～夏の甲子園のふしぎ～

・「原 辰徳 氏によるスペシャルトーク」

2018年8月3日(金) 13:00～14:15

・朝日新聞・名物スポーツ記者のお話「あの夏」の甲子園ウラ話」

2018年8月4日(土)・15日(水) 西村 欣也氏

2018年8月9日(木)・10日(金) 井上 明氏

(各日14:00～/約40分)

・「特製・夏の甲子園なぞ解きシート」の無料配布

2018年8月3日(金)～8月16日(木) (写真展期間中)

販売物

『週刊朝日増刊 甲子園2018』(朝日新聞出版)

『あの夏』上巻/下巻(朝日新聞スポーツ部)

『完全保存版 夏の甲子園100回』(週刊朝日編集部)

『完全保存版 高校野球100年』(週刊朝日編集部)

【予約注文】『全国高等学校野球選手権大会100回史』(朝日新聞出版)



ご来館者数

合計20,817人(14日間)

ご来館者様の声

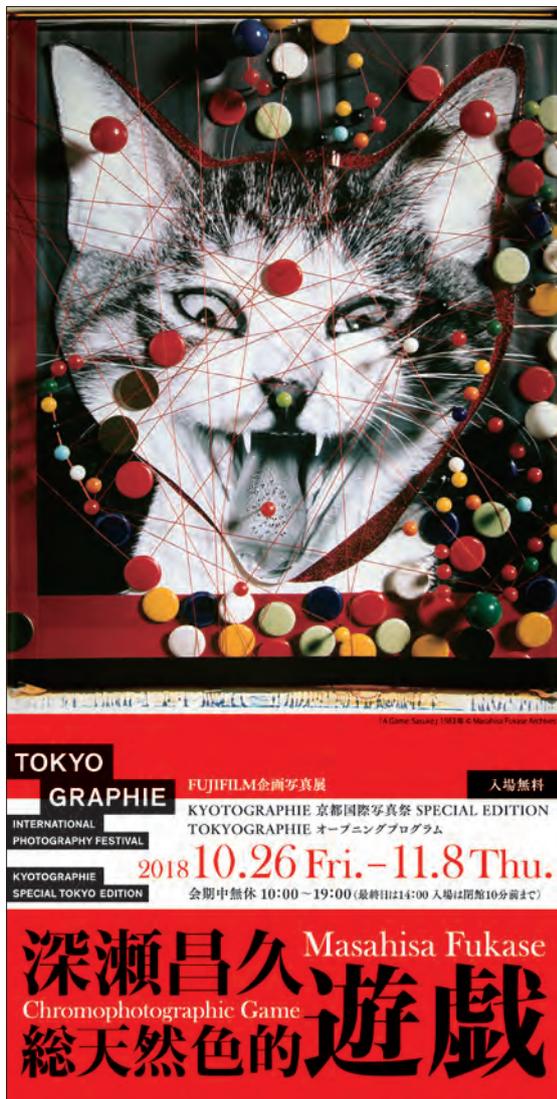
写真は、すごいなあと思いました。迫力がありました。

野球好きなので興味深い内容でした。

感動が伝わってくる素敵な写真が良かったです。

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 SPECIAL EDITION

TOKYOGRAPHIE オープニングプログラム

2018年10月26日～11月8日
富士フィルムフォトサロン 東京
スペース1・スペース2・ミニギャラリー

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭と共催し、東京ポップアップイベント“TOKYOGRAPHIE”のオープニングプログラムとして、深瀬昌久写真展「総天然色の遊戯」、インターナショナル・ポートフォリオレビュー2018 FUJIFILM AWARD大賞受賞作品である林道子写真展「Hodophylax ～道を護るもの～」と特別賞の関健作写真展「GOKAB ～HIPHOPに魅了されたプータンの若者たち～」そして、「KYOTOGRAPHIE こども写真コンクール2018優秀作品」の4写真展を開催しました。

【深瀬 昌久 写真展】…「総天然色の遊戯」は、KYOTOGRAPHIE 2018のメインプログラムのひとつとして開催された深瀬昌久の国内初回顧展「遊戯」を新たなコンセプト、すなわち「カラー写真」から再構築しました。これまで深瀬の代表作といえば、「鴉」や「サスケ」、「洋子」といったモノクロ作品群が挙げられてきた一方で、カラー写真も多く撮影した作家であったことはあまり知られていませんでした。1960年代から1990年代にかけて深瀬が制作したカラー作品群を辿ることによって、これまで語られることがなかった深瀬の「総天然色の遊戯」を確かめる機会となりました。

【林 道子 写真展】…「Hodophylax ～道を護るもの～」は、獣としての狼の存在と痕跡を奥秩父から奥多摩の山域に探りつつ、山に暮らす人々の間に伝わってきた狼にまつわる民話や伝承を視覚化するように試みた意欲作として話題を呼びました。

【関 健作 写真展「GOKAB ～HIPHOPに魅了されたプータンの若者たち～」】…自分たちの想いを発信するプータンのヒップホッパーたちの姿に、写真で何かを掴もうとしている自身を重ねた関氏が、撮影した写真に彼らが描いたグラフィティを編み込んだ、希望と叫びの物語が高く評価されました。



展示作品点数

132点

出展写真家

深瀬昌久、林道子、関健作

クレジット

主催：富士フィルム株式会社・一般社団法人KYOTOGRAPHIE
 協力：深瀬昌久アーカイブス
 デザイン：ナノナグラフィックス
 プリント制作：プロラボ クリエイト

併催イベント

出展写真家トークセッション

2018年10月27日(土) 14:00～15:00 林道子×写真家 森山大道

2018年10月27日(土) 16:30～17:30 深瀬昌久アーカイブス トモ・コスガ

2018年10月28日(日) 16:30～17:30 関健作×フォトジャーナリスト 安田菜津紀

販売物

『MASAHISA FUKASE』(赤々舎)

『関健作写真集「OF HOPE AND FEAR」』(関健作)

『Hodophylax ～道を護るもの～』(林道子)

ご来館者数

合計22,704人(14日間)

ご来館者様の声

写真がいろいろな表現ができることに驚かされる。

素晴らしいと思います。来て良かったです。

新鮮な展示で刺激を受けました。

昭和が生んだ写真・怪物 時代を語る林忠彦の仕事

〈第1部〉2018年4月1日～5月31日
 〈第2部〉2018年6月1日～7月31日
 写真歴史博物館



太宰 治 酒場ムバンで 銀座 / 1946 (昭和21年) © 林忠彦作品研究室

主催：富士フィルム株式会社
 監修：林 義勝（林忠彦作品研究室代表）
 協力：周南市美術館
 後援：港区教育委員会
 企画：フォトクラシック

第1部／激動の昭和をフィルムに写し込んだ

2018年4月1日(日)～5月31日(木)

第2部／日本文化の原風景をフィルムに写し込んだ

2018年6月1日(金)～7月31日(火)

会期中無休・入場無料

10:00～19:00(入場は18:50まで)

FUJIFILM SQUARE

昭和が生んだ写真・怪物 時代を語る 林忠彦の仕事

フジフィルムスクエア 写真歴史博物館 企画写真展

写真家・林忠彦は、戦後間もない銀座から再出発し、カストリ雑誌ブームの時流に乗って、一躍、人気写真家となりました。第二次世界大戦、高度経済成長、バブル景気へと移り変わる激動の昭和時代、凄まじい勢いですべてを撮り尽くした林の仕事ぶりは、まさに「昭和が生んだ怪物」と呼ぶにふさわしいものです。本展は、林忠彦の四男で写真家の林義勝氏監修のもと、二つの時代に焦点を絞り、新たな視点でその足跡を振り返りました。第1部では林の初期の傑作〈カストリ時代〉に代表される戦後の東京と人々を記録したモノクロ作品を展示。第2部では、国宝や重要文化財に指定されている全国各地の茶室を被写体に林の美意識と撮影技術の粋を極めた〈茶室〉と、人生最後のライフワークとして義勝氏と完成させた〈東海道〉より厳選されたカラー作品を紹介しました。それぞれの作品は、林の活動初期と晩年の仕事を対比的に示すと同時に、「写真は記録だ」という林の一貫した信念を浮かび上がらせました。一葉一葉に凝縮された写真の力が私たちの心を強く揺さぶる写真展となりました。



展示作品点数

第1部：25点

第2部：27点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社

後援：港区教育委員会

監修：林 義勝（林忠彦作品研究室代表）

協力：周南市美術館

企画：フォトクラシック

デザイン：脇野直人

プリント制作：写真弘社（第1部）、カラーサイエンスラボ（第2部）

併催イベント

- ・ 第1部「激動の昭和をフィルムに写し込んだ」ギャラリートーク
 2018年4月21日(土) 14:00～/16:00～(各回ともに約30分)
 2018年5月12日(土) 14:00～/16:00～(各回ともに約30分)
- ・ 第2部「日本文化の原風景をフィルムに写し込んだ」ギャラリートーク
 2018年6月23日(土) 14:00～/16:00～(各回ともに約30分)
 2018年7月14日(土) 14:00～/16:00～(各回ともに約30分)
- ・ 林義勝氏によるトークショー「父・林忠彦の仕事、息子・林義勝の仕事」
 2018年6月9日(土) 13:30～15:00(約90分)

販売物

『時代を語る林忠彦の仕事』(光村推古書院)

『AMERICA 1955』(徳間書店)

『オヤジの背中』(日本写真企画)

『東海道の旅』(ウェッジ)

主要メディア掲載

テレビ「港区広報トピックス/J:COM」(港・新宿、5月1日～10日)、朝日新聞夕刊(東京、3月20日)、毎日新聞夕刊(東京、4月2日)、産経新聞(東京、6月28日) ほかに雑誌、ウェブサイトなど多数

ご来館者数

合計203,807人(122日間)

ご来館者様の声

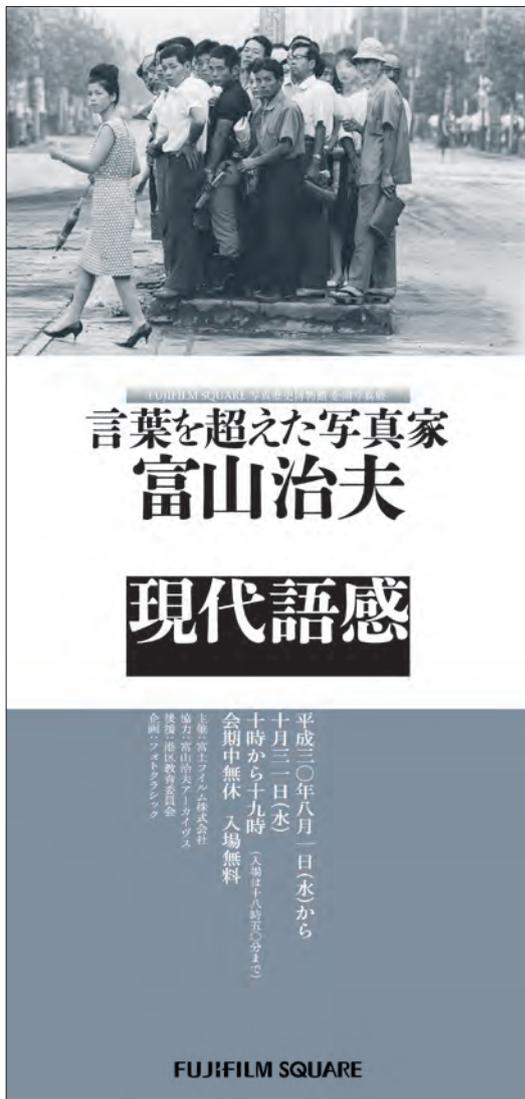
構図の取り方が美しいと思った。見ることができて良かった。

確かに何か伝わってくるものがあった。

太宰を撮った有名な写真を見ることができて感激しました。

言葉を越えた写真家

富山治夫「現代語感」

2018年8月1日～10月31日
写真歴史博物館

展示作品点数

26点

クレジット

主催：富士フイルム株式会社
 後援：港区教育委員会
 協力：富山治夫アーカイヴス
 企画：フォトクラシック
 デザイン：TypeShop_g

併催イベント

白谷達也氏(元 朝日新聞出版写真部長)によるギャラリートーク
 2018年9月29日(土) 14:00～/16:00～
 (各回ともに約30分)

主要メディア掲載

朝日新聞夕刊(東京、7月13日)、日本経済新聞(東京、7月28日)、日本経済新聞(大阪、7月28日)、読売新聞夕刊(東京、7月31日)、THE JAPAN TIMES TOKYO(8月15日)、婦人公論(7.10号)、週刊ポスト(9.7号)、週刊朝日(9.14号) ほかにウェブサイトなど多数

ご来館者数

合計139,152人(92日間)

日本の進路を決める転換期となった1960年代。週刊誌の創刊ブームが起り、ジャーナリズムが全盛を極めたその当時、現場の第一線で活躍していた写真家の一人が富山治夫です。『朝日ジャーナル』誌で「現代語感」の連載がスタートしたのは、その最中である1964年、「過密」というテーマからでした。

独学で写真を学んだ後、『女性自身』誌、朝日新聞出版写真部の嘱託カメラマンとして活躍していた富山は、この「現代語感」によって頭角を現しました。同企画は、当時のマスメディアで頻繁に登場していた「過密」「連帯」「許容」といった二字熟語をテーマに、写真とエッセイの競作で試みられた社会時評です。写真を朝日新聞出版写真部員が分担し、飯沢匡氏や大江健三郎氏らがエッセイを執筆したこの連載は、飛躍的な経済成長を遂げ、価値観が大きく変わろうとしていた日本の世態を鋭く風刺し、人気を博しました。中でも、富山の作品は独特の言葉の解釈とユーモア溢れる表現力で異彩を放ち、読者に圧倒的な印象を残しました。富山はその後もライフワークとして約40年にわたり、時代と言葉を撮り続け、複数の雑誌で「現代語感」として断続的に作品を発表し続けました。

本展は、富山治夫の代名詞ともいえる「現代語感」のシリーズより、本人が1998年に自選し制作したオリジナル・プリントを展示しました。富山は、自分は職人であると語り、独自の職業観で「写真ほど素敵な商売はない」と綴っています。特異な感性で時代を明快にとらえた作品群は、言葉を越えた写真表現の原点と可能性を再認識させるものです。写真展開催期間は平成も終盤に差しかかった時期に重なり、昭和を象徴的に映像化した本作を見つめ直すことが、日本の歩みを振り返る絶好の機会となりました。



ご来館者様の声

自分も写真を撮るのでとてもいい刺激になりました。

写真を通して色々な人の生活、生き方を知ることができるのは素敵だと思った。

感動しました。昭和40年代を、思い出し懐かしかったです。

色彩の^{たびびと}写真家 前田真三

出合いの瞬間をもとめて

〈第1部〉2018年11月1日－12月28日

〈第2部〉2019年1月4日－2月28日

写真歴史博物館

フジフィルム スクエア 写真歴史博物館 企画写真展

色彩の^{たびびと}写真家

前田真三

出合いの瞬間をもとめて

SHINZO MAEDA

第1部「ふるさと調の時代」
2018年11月1日(木) ▶ 12月28日(金)

第2部「丘の時代」
2019年1月4日(金) ▶ 2月28日(木)

会期中無休・入場無料
10:00～19:00(入場は閉館10分前まで)

FUJIFILM SQUARE



主催：富士フィルム株式会社
監修：前田 晃(株式会社丹溪)
後援：港区教育委員会
企画：フォトクラシック

前田真三は、1970年代に日本の風景写真の流れを決定づけた写真家です。洗練された造形感覚で自然をとらえ、日本の風景に新たな美を見出した独特の作風は、今日まで多くの風景写真家に影響を与えてきました。

本展では、前田の原点であるモノクロの風景写真と代表作であるカラーの風景写真、二つの時代の作品群を二部構成で展示。第1部は「ふるさと調の時代」と題し、前田の故郷、東京・恩方をはじめ、日本各地の素朴な田園風景を1950、60年代に撮影した作品群を、第2部は、1971年の美瑛の丘との出会い以降に撮影された作品群を、「丘の時代」として、特に前田がこだわりを持って制作したダイトランスファープリントの作品で紹介しました。

前田は「考えることは有限だが、感じることは無限だ」と語っています。この言葉は、限りなく続く大地の光景をも彷彿とさせます。写真作品として永遠に輝き続ける風景が、前田の言葉とともに私たちが忘れかけていた感性を呼び覚ます写真展となりました。

展示作品点数

第1部：28点

第2部：26点

クレジット

主催：富士フィルム株式会社

後援：港区教育委員会

監修：前田 晃(株式会社丹溪)

企画：フォトクラシック

デザイン：脇野直人

プリント制作：フォトグラファーズ・ラボラトリー(第1部)、日本カラーエンジニアーズ(第2部)

併催イベント

前田 晃氏(株式会社丹溪)によるギャラリートーク

第1部「ふるさと調の時代」

2018年12月15日(土) 14:00～/16:00～ (各回ともに約30分)

第2部「丘の時代」

2019年1月26日(土) 14:00～/16:00～

2019年2月9日(土) 14:00～/16:00～ (各回ともに約30分)

販売物

〈第1部販売物〉

『風景遍歴』(日本カメラ社)、『昭和写真全仕事 13 前田真三』(朝日新聞社)、

『出合いの瞬間』(毎日新聞社)

〈第2部販売物〉

『奥三河』(グラフィック社)、『山川草木』(グラフィック社)、『山野逍遙』(毎日新聞社)、

丹溪 カレンダー「遙かなる丘」



主要メディア掲載

毎日新聞(東京、11月2日)、朝日新聞夕刊(東京、11月5日)、日本経済新聞(1月3日)、日本経済新聞(大阪、1月3日)、47NEWS、infoseekニュース、朝日新聞デジタル & M ほかに雑誌、ウェブサイトなど多数

ご来館者数

合計206,887人(120日間)

ご来館者様の声

綺麗な写真を楽しませていただきました。また、来たいと思います。

前田真三の、モノクロの作品を見ることができて良かったです。

前田真三さんの写真の色彩の豊かさに感銘を受けました。

色彩の聖域

エルンスト・ハース ザ・クリエイション

2019年3月1日～5月31日
写真歴史博物館

展示作品点数

21点

クレジット

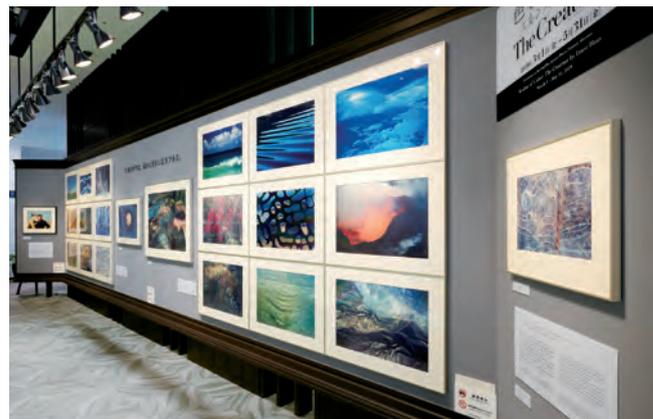
主催：富士フイルム株式会社
 特別協力：PPS通信社
 協力：エルンスト・ハース・エステート、日本大学芸術学部写真学科
 企画：フォトクラシック
 デザイン：脇野直人
 プリント制作：CVI Lab.

併催イベント

- ・本展キュレーター・大澤友貴氏(フォトクラシック)によるギャラリートーク
 2019年3月30日(土) 14:00～/16:00～
 2019年4月20日(土) 14:00～/16:00～
 (各回ともに約30分)
- ・高橋則英氏(日本大学芸術学部写真学科教授)によるギャラリートーク
 2019年5月11日(土) 14:00～/16:00～
 (各回ともに約30分)

エルンスト・ハースは、1950年代にカラー写真の表現を切り拓き「色彩の魔術師」と呼ばれた写真家です。1921年、ウィーンに生まれたハースは、1947年にオーストリア人捕虜の帰還を撮影した写真でロバート・キャパに認められ、当時結成されたばかりの写真家集団マグナムに迎えられました。ハースも当初はモノクロによるドキュメンタリー写真に取り組んでいましたが、1949年から開発されて間もないカラーフィルムによる実験を始め、ニューヨークでカラーのシリーズ作品の撮影を始めます。当時のカラーフィルムは感度が極めて低く表現の自由度に欠けるものでしたが、ハースは巧みな技術でその特性を生かし、1953年に『ライフ』誌に初めてカラーフォトエッセイが掲載されると、その魔法のような色彩あふれる写真は世界中の写真家に感動と希望を与えました。ハースはその後もヴェネツィアの街やスペインの闘牛などをテーマに次々と創造的で詩情豊かなカラー作品を発表し、1962年には、ニューヨーク近代美術館で最初のカラー写真による個展を開催した写真家となりました。

本展では、1971年に写真集として発表されたエルンスト・ハースの最高傑作「ザ・クリエイション」より、厳選された21点を貴重なダイトランスファープリントで展示しました。自然の姿に「天地創造」の荘厳な世界を重ね、鮮烈かつ繊細な色調で表現した作品群は、ハースの圧倒的な思想と視点を感じさせ、現代においては当たり前となったカラー写真の真の意味をもう問い直す機会となりました。



主要メディア掲載

読売新聞夕刊(東京、2月26日)、朝日新聞夕刊(東京、3月8日)、THE JAPAN TIMES TOKYO(2月27日)、Weeklyプレイボーイ(1月30日)、Newton(2月26日)、infoseekニュース、YOMIURI ONLINE ほかにウェブサイトなど多数

ご来館者数

合計49,570人(31日間) ※写真展会期のうち2018年度3月31日までの人数

ご来館者様の声

大学で写真を学んでいるので頑張ろうと刺激になりました。

圧倒されました。とても綺麗でした。

写真展を見ることが楽しいと思いました。

写真展開催リスト

■富士フィルムフォトサロン 東京・ミニギャラリー／開催写真展 計75本(当社主催企画展9本、当社主催・共催・協力写真展12本、公募展54本)	開催イベント		会場		
	ギャラリートーク	その他	富士フィルムフォトサロン 東京		
			スペース1	スペース2	ミニギャラリー
四季と対峙し、思いを託した銀塩フィルム フォトグループ いぶき 写真展「2018 四季のいぶき」			●	●	
探検!発見!六本木 第10回 六本木フォトコンテスト入賞作品展					●
30,000点強から選ばれた渾身の作品180点が結集! 第57回 富士フィルムフォトコンテスト入賞作品発表展			●	●	
ドキュメンタリー、時代の真実をあぶり出せ! 第27回林忠彦賞受賞記念写真展 藤岡亜弥「川はゆく」			●		
空気までも凍る、厳寒の十勝、美の世界 岩崎量示写真展「華氏0度」			●	●	
知られざる那須、15年間 26点の発見! ロイヤルリゾート那須「四季の那須フォトコンテスト」写真展					●
花は時として饒舌、時として寡黙 こだわり花クラブ 第10回写真展			●		
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】吉永陽一写真展「いきづかいーいつもの鉄路」			●	●	
亜熱帯の色と音、大らかな人々を捉えた意欲作 松島 寛 写真展「キューバ N23°」			●		
“PHOTO IS” 50,000人の写真展2017 より					●
後世に伝えたい日本の絶景を厳選! 創立15周年記念 日本風景写真協会選抜展「四季のいる」			●	●	
自然と向き合う、感動の決定的瞬間 日本自然科学写真協会 第39回 SSP展「自然を楽しむ科学の眼 2018-2019」			●	●	
神秘の花と向き合う、ときめきの時間 葦口ヒロミ写真展「蓮華の譜(しらべ)」			●		
謎の島に、カメラは50回を越えて渡った 秦達夫 写真展「屋久島 Rainy Days」			●	●	
【チェキ写真展】「instax SQUARE SQ6」GALLERY					●
優れた功績に贈られた受賞作をご紹介します 東京写真月間2018 日本写真協会賞受賞作品展			●		
日本百名山・花の百名山、その輝きの一瞬 山本安志写真展「月山 四季の輝き」			●	●	
こだわりのカメラで紡ぐ、繊細な四季の表情 第9回 エポニークラブ展「旬美」			●		
研究者だから撮り得た、生態系の神秘! 大林隆司写真展「私が観てきた小笠原の自然〜ミクロから宇宙まで〜」			●	●	
X-T2・X100F 初夏の葉っぱのある風景 ~ 宮沢あきら ~					●
二千年受け継がれし驚愕の浮彫技法 島田直明 写真展「手のひらの芸術 カメオ」			●		
4つの海を一度に体感する究極のダイブへ! ガイド会 海のシェルパ写真展「ONE DIVE」			●	●	
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 「138億光年 大いなる宇宙の旅」~NASA 60周年 天体写真ベストセレクション~		講演会/解説会	●	●	●
“PHOTO IS”想いをつなぐ、50,000人の写真展 2018			●	●	●
91年にわたって受け継いできた光と影で魅せる写真術 第91回 日本写真会展覧会			●		
写真に和歌の魅力を加えて、抒情性を高める ~写真と和歌で四季を奏でる~ 加茂清次写真展「四季讃々」				●	
山中湖からとらえた躍動する富士山が集結 第11回 山中湖フォトグランプリ写真展					●
感性溢れる作品で会場を華やかに演出 第41回 女性だけの写真展			●	●	
【全国高等学校野球選手権大会100回史】刊行記念 「夏の甲子園 名勝負・名選手」写真展		講演会/体験	●	●	●
「動く橋」のダイナミックな光景を堪能 上岡弘和写真展「日本の可動橋-勝開橋とその仲間-」			●		
後世に残したい日本各地の祭りを記録した貴重な作品群 JAPAN PHOTO 2017「日本の祭りフォトコンテスト」入賞作品展			●	●	
おうちに写真を飾ろう! ~ウォールデコの楽しみ方~					●
スナップ、祭り、風景あらゆるジャンルの作品が面白い 2018全日本読売写真クラブ展			●	●	
全日写真連フォトフェスティバル2018 第50回 カラーフェア 第17回 全日本モノクロ写真展 第10回 人間大好き!フォトコンテスト			●	●	
人と猫との繋がりをテーマに心あたたまる写真が並ぶ 松本伸夫 写真展「猫と人が奏でる時間」					●
「お祭り男」が撮った熱気と伝統 森井禎紹写真展「東海道五十三次 祭り旅」			●		
衝動的に押したその一瞬は、瞬間の記憶だった 野口貴司写真展「STAY OR GO」			●	●	
川霧が織り成すドラマチックな世界 大貫亘写真展「川霧の里」			●		
山頂から山麓まで四季折々の富士山 町田満 写真展「富士憧憬(しょうけい)~永遠(とわ)に美しく~」			●	●	
富士フィルムフォトコンテスト 歴代グランプリ作品展					●
人々の営みにカメラを向けた懐かしい匂いのする写真展 古屋行男写真展「中国雲南」			●		
色と光を操り、感性豊かに描いた美しき世界 第33回 四季会写真展 四季彩美「季節の色と水風景」			●	●	
自然の造形美をスクエアに撮る感性が魅力 第37回 ハッセルブラッドフォトクラブ写真展			●		



写真展開催リスト

	開催イベント	会場		
		ギャラリートーク	その他	富士フィルムフォトサロン 東京 スペース1 スペース2 ミニギャラリー
富士フィルムフォトサロン 若手写真家応援プロジェクト 【写真家たちの新しい物語】 高須 力写真展「夢を跳ぶ。寺島武志、セバタクローに生きる」	2018年9月28日(金)～2018年10月11日(木)	●		●
ポストカードに凝縮した感動 樽川一郎写真展「POSTCARD PHOTO LIFE」	2018年9月28日(金)～ 2018年10月11日(木)			●
第40回 内田良平と閑良屋会(ヒマラヤカイ)山岳写真展「遙かなる山」	2018年10月5日(金)～2018年10月11日(木)	●		●
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 Now or never. instax Gallery A Taylor Swift Photo Collection テイラー・スウィフト写真展	2018年10月12日(金)～2018年10月25日(木)			● ● ●
KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 SPECIAL EDITION TOKYOGRAPHIE オープニングプログラム	2018年10月26日(金)～2018年11月8日(木)		講演会	● ● ●
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 「アメリカ近代写真の至宝 ギルバート・コレクション展」	2018年11月9日(金)～2018年11月28日(水)	●	解説会	● ● ●
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 40年間ありがとうございました。女優「樹木希林」さん 写真展	2018年11月9日(金)～2018年11月29日(木)			●
Tokyo Disney Resort® Photography Project Imagining the Magic Photographer Mika Ninagawa 東京ディズニーリゾート®・フォトグラフィープロジェクト「イマジニング・ザ・マジック」写真展 Colors of Celebration ～東京ディズニーリゾート35周年記念写真展～	2018年11月30日(金)～2018年12月19日(水)			● ● ●
プロの技術でとらえた表現力豊かな写真 2018 富士フィルム営業写真コンテスト 入賞作品発表展	2018年12月21日(金)～2018年12月28日(金)	●		●
雑誌で見た「今」の日本が並ぶ 「2018年日本雑誌写真記者会写真展」	2018年12月21日(金)～2018年12月28日(金)	●		●
好きなもの自由に撮る、写真の楽しさを実感 女性だけの写真教室 卒業作品展	2018年12月21日(金)～2018年12月28日(金)			●
第14回 美しい風景写真100人展	2019年1月4日(金)～2019年1月17日(木)	●		● ● ●
新進作家が迫ったドキュメンタリー作品 2018年 第14回「名取洋之助写真賞」受賞作品 写真展	2019年1月18日(金)～2019年1月24日(木)	●		●
富士山の偉大さに惚れ込んで撮り続ける 富塚裕子写真展「朝な夕なに ～富士山とともに～」	2019年1月18日(金)～2019年1月24日(木)	●		●
富山の森やくらし、家族の絆を発信する とやま森の四季彩フォト大賞 歴代作品展	2019年1月18日(金)～2019年1月31日(木)			●
毎日新聞主催、全国規模の写真コンテストの入賞作品展 「2018年 毎日写真コンテスト優秀作品展」	2019年1月25日(金)～2019年1月31日(木)			●
波の音、潮風の香り、五感に響く作品群 木邑 旭宗(きむら かっひこ)写真展「LOVE & PEACE」	2019年1月25日(金)～2019年1月31日(木)	●		●
1200年続く伝統技術と文化を担う職人を追った 中塚雅晴写真展「出雲大社平成大遷宮御修造」	2019年2月1日(金)～2019年2月7日(木)	●		●
富士山の魅力をネットで発信しつづける写真家集団 富士フォトネット(FPN)写真展「富士光彩」	2019年2月1日(金)～2019年2月7日(木)	●		●
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 菅原貴徳「SNAP! BIRDS」	2019年2月1日(金)～2019年2月14日(木)		写真教室	●
豊かな写真ライフを楽しむ人の秀作が並ぶ 第29回 NHK学園生涯学習写真展	2019年2月8日(金)～2019年2月14日(木)			● ●
マクロレンズの魔術師がとらえた小さな世界 江口慎一写真展「風の詩集」	2019年2月15日(金)～2019年2月21日(木)		音楽ライブ	●
時が止まったかのような無限の世界に感動 南 佐和子写真展「ICELAND」—アイスランド 最果てのドラマ—	2019年2月15日(金)～2019年2月21日(木)	●		●
国際性や歴史、文化、芸術の町・麻布を見直す写真展 「麻布未来写真館」パネル展	2019年2月15日(金)～2019年2月28日(木)			●
体感マイナス40度の世界が魅せる美しき世界 小川 誠 写真展 ～エベレスト登頂者が撮った～「3,000mのドラマ 北アルプス」	2019年2月22日(金)～2019年2月28日(木)	●		●
裏磐梯に惹かれ移住した男が描く自然の彩り 黒原範雄写真展「自然との邂逅(かいこう)」	2019年2月22日(金)～2019年2月28日(木)	●		●
報道写真からホッとさせる写真まで多彩なジャンルが魅力 第40回よみうり写真大賞入賞作品発表展	2019年3月1日(金)～2019年3月7日(木)		作品解説	●
桜を愛する写真家が描く一大絵巻 鈴木一雄写真展「サクラニシス」	2019年3月1日(金)～2019年3月7日(木)	●		●
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 保坂さほ写真展<GIRLS in Tokyo>	2019年3月1日(金)～2019年3月14日(木)		写真教室	●
創立70周年で歴史・規模ともに屈指の写真展 第70回 中日写真展・東京展	2019年3月8日(金)～2019年3月14日(木)	●		●
自然が織り成す美瑛富良野の絶景と動物たちの魅力 林 祐介 写真展「Beautiful Hokkaido」～大地と生命～	2019年3月8日(金)～2019年3月14日(木)	●		●
FUJIFILM SQUARE 企画写真展 写真家 竹内敏信の日本縦断「桜」紀行 竹内敏信写真展「日本の桜 NIPPON-NO SAKURA」	2019年3月15日(金)～2019年4月3日(水)	●	講演会 解説会	● ● ●
■写真歴史博物館／開催写真展 計4本				
FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 「昭和が生んだ写真・怪物 時代を語る林志彦の仕事」 第1部 「激動の昭和をフィルムに写し込んだ」 第2部 「日本文化の原風景をフィルムに写し込んだ」	第1部 2018年4月1日(日)～5月31日(木) 第2部 2018年6月1日(金)～7月31日(火)	●	講演会	
FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 「言葉を超えた写真家 富山治夫「現代語感」」	2018年8月1日(水)～10月31日(水)	●		
FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 「色彩の写真家(たびびと) 前田真三 出会いの瞬間をもとめて」 第1部 「ふるさと調の時代」 第2部 「丘の時代」	第1部：2018年11月1日(木)～12月28日(金) 第2部：2019年1月4日(金)～2月28日(木)	●		
FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展 「色彩の聖域 エルンスト・ハース ザ・クリエイション」	2019年3月1日(金)～2019年5月31日(金)	●		



FUJIFILM SQUARE(フジフィルム スクエア)は2018年度、当社が主催する企画展13本、プロの写真家やアマチュアの写真愛好家の方から作品を募集する公募展54本、当社が主催/共催/協力する写真展12本、合計79本の写真展を年中無休*入場無料で開催し、約60万人の方にご来館いただきました。幅広い年齢層のお客様にご来館いただき、メディアでも数多く取り上げられました。また、ギャラリートーク、講演会、写真教室等、鑑賞サポート活動に力を入れ、1万3千人超の方にご参加いただきました。これからも、出展者の皆様、鑑賞者の皆様と共に、プリントだからこそ伝わる真の写真の価値を共有し、フジフィルム スクエアの活動などを通じ、写真文化を絶えず守り育み続けます。

* 年末年始を除く

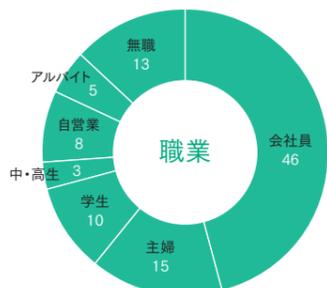
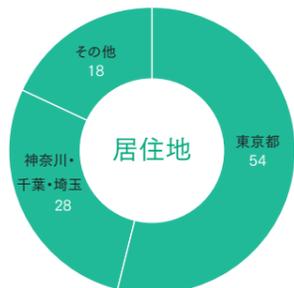
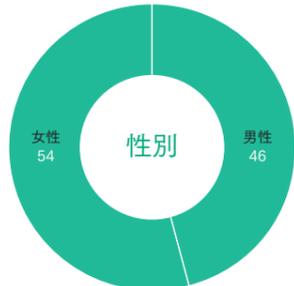
来館実績

来館者数

年間合計 599,416人

来館者属性

※自社アンケート調査による。(回答人数10,046人、グラフの単位は%)



交通広告、記事掲載

フジフィルム スクエアでは、下記の主要交通広告にて施設および企画展をご案内しています。また、メディアで数多くご紹介いただいております。当社の媒体であるフジフィルム スクエア公式ホームページやSNSでも多くの方々に支持されています。

主要交通広告

日比谷線・六本木駅、日比谷線・恵比寿駅、千代田線・乃木坂駅、都営大江戸線・青山一丁目駅、東京ミッドタウン

主要メディア掲載

- テレビ
FNNプライムニュース イブニング / フジテレビ ほか
- 中央紙、ブロック紙、地方紙
朝日新聞、産経新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞、東京新聞、信濃毎日新聞、神戸新聞、山形新聞 ほか

- 写真・カメラ紙(誌)
「アサヒカメラ」、「カメラマン」、「CAPA」、「コマースナルフォト」、「週刊カメラタイムズ」、「日本カメラ」、「風景写真」、「フォトコン」、「フォトテックデジタル」 ほか

- その他新聞
THE JAPAN TIMES TOKYO、定年時代(東京版)、読売中高生新聞 ほか

- 雑誌ほか
「Weeklyプレイボーイ」、「男の隠れ家」、「週刊朝日」、「週刊新潮」、「週刊東洋経済」、「週刊文春」、「週刊ポスト」、「SPA!」、「tokyo weekender」、「日経サイエンス」、「Newton」、「婦人公論」 ほか

- WEB
朝日新聞デジタル & M、infoseekニュース、goo ニュース、グノシー、NAVERまとめ、mixi ニュース、Yahoo! ニュース、YOMIURI ONLINE、47NEWS、livedoor ニュース ほか

- (五十音順)

自社媒体

- フジフィルム スクエア公式ホームページ・・・ユーザー数 277,518人
- Facebook、Twitter・・・投稿件数 370件

鑑賞サポート活動

写真展は「撮った人＝出展者」の気持ちを「見た人＝鑑賞者」に伝える場です。フジフィルム スクエアは、写真展を通じてより多くの「人」と「人」の心をつなぐために、さまざまな鑑賞サポート活動を行っています。2018年度は合計13,459人の方にご参加いただきました。

ギャラリートーク、解説会

写真展の会期中、写真展会場内で作品解説を行っています。出展者ご自身に解説いただく機会も多く、出展者と鑑賞者の交流の場ともなっています。

ギャラリートーク、解説会	開催回数	参加人数
富士フィルムフォトサロンでの企画写真展	117回	3,259人
公募展	121回	4,014人
写真歴史博物館	18回	830人
	計 256回	計 8,103人

講演会、写真教室、体験、音楽ライブ

写真に親しむ機会を幅広くご提供するために、写真展に合わせたイベントを企画開催しています。

講演会	参加人数
「昭和が生んだ写真・怪物 時代を語る林忠彦の仕事」 林義勝氏によるトークショー「父・林忠彦の仕事、息子・林義勝の仕事」	51人
「138億光年 大いなる宇宙の旅」 国立天文台 副台長 渡部潤一氏による記念講演会	190人
「138億光年 大いなる宇宙の旅」 国立天文台 副台長 渡部潤一氏・タレント黒田有彩氏による記念トークイベント	173人
「全国高等学校野球選手権大会100回史」刊行記念 「夏の甲子園 名勝負・名選手」写真展 夏休み特別イベント ～夏の甲子園のふしぎ～「原 辰徳 氏によるスペシャルトーク」	185人
KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 SPECIAL EDITION TOKYOGRAPHIE オープニングプログラム 出展写真家トークセッション	310人
竹内敏信写真展「日本の桜」NIPPON-NO SAKURA トークイベント「竹内一門 おおいに師匠を語る」	220人

写真教室	参加人数
菅原貴徳「SNAP! BIRDS」 スライド上映による“鳥風景”の作品解説・撮り方レクチャー	65人
保坂さほ写真展 <GIRLS in Tokyo> 「保坂さほ流世界観の作り方」レクチャー	50人

体験	参加人数
「全国高等学校野球選手権大会100回史」刊行記念 「夏の甲子園 名勝負・名選手」写真展 夏休み特別イベント～夏の甲子園のふしぎ～ 「特製・夏の甲子園なぞ解きシート」の無料配布	1,504人

音楽ライブ	参加人数
江口慎一写真展「風の詩集」の世界をイメージした 渡辺かづき氏・木下麻里氏のジャズライブ「Photo ♪ and Jazz」	40人

写真歴史博物館コンシェルジュツアー

富士フィルムで写真製品の研究・開発・技術サポートに長年携わったOBがコンシェルジュとして、写真の歴史と企画展について分かりやすく解説しています。

	参加人数
写真の歴史と企画展についての解説ツアー 2018年4月1日から2019年3月31日 毎日1回(年末年始休館日を除く)	2,275人
体験型 写真の歴史を旅するツアー(グループ申込・予約制)	293人

写真体験

フジフィルム スクエアでは、富士フィルムのインスタントカメラ／インスタント写真システム「チェキ」の体験イベントを不定期で実施しています。

	参加人数
チェキ撮影体験	3,338人

ご来館者様の声

フジフィルム スクエアでは、ご来館の皆様からさまざまなご感想をいただいています。展示作品に対する感動の声を筆頭に、プリントの価値や質の高さ、鑑賞サポート活動、接客スタッフのホスピタリティなどを高く評価するコメントをいただいています。

- 綺麗な写真の力に感動を覚えた。
- プリントが美しく感激しました。
- いつも質の高い展示で作品を堪能しています。
- 写真家の話が聞けて良かったです。
- 展示だけでなくカメラの歴史も学ぶことができ、カメラや写真への興味が広がりました。
- 無料で気軽に入りやすいのに展示は本格的で見応えがあります。
- 無料で、このような質の高い写真展を見ることができて感謝。
- 実際に体験することができるところが沢山あって飽きませんでした。親子で楽しめました。
- コンシェルジュの説明を聞き、今まで断片的だった写真の知識が体系的に整理されたと思いました。
- スタッフの皆さんに丁寧に対応してもらえた。
- 是非続けていってください。貴重な文化だと思います。
- このような写真展は富士フィルムだからこそできることだと思います。
- 素晴らしい写真を見ると、自分でも撮りたくなります。

■メセナアワード2018 優秀賞「瞬間の芸術賞」受賞



フジフィルム スクエアの活動が、公益社団法人企業メセナ協議会主催の「メセナアワード2018」において、優秀賞「瞬間の芸術賞」を受賞。「富士フィルムフォトサロン」「写真歴史博物館」の運営、「フジフィルム・フォトコレクション」の収蔵・展示の3つの総合的な活動が評価されました。今回の受賞にあたり、主に以下2点を評価いただきました。

- 1) 長年にわたり、写真作品を発表、鑑賞する場を提供し、「撮った人＝出展者」の気持ちを「見た人＝鑑賞者」に伝え、人と人の心がつながる感動体験を広め、写真文化の普及と発展に貢献していること。
- 2) 時代を超える価値を持つ貴重な写真作品を展示する機会を作り、記録性や芸術性という写真の本質を、時代に合った内容でその時々の鑑賞者に伝わりやすく発信し、写真を文化財として継承・育成する可能性を追求し続けていること。



メセナアワードとは

- ・公益社団法人企業メセナ協議会が、企業・企業財団による優れたメセナ活動を顕彰するもので、企業によるメセナの充実と社会からの関心を高めることを目的に、1991年に創設。
- ・賞の選考ポイントとしては、経営資源を活動にかす工夫、芸術・文化や社会・地域とのかかわり方、活動の展開や継続への意欲、芸術・文化及び社会に与えるインパクトや貢献度があげられている。
- ・本年度は「This is MECENAT 2018」の152件の応募の中から、外部の有識者により、メセナ大賞、優秀賞5件、文化庁長官賞 計7賞が選ばれた。

フジフィルム スクエアは
これからも
「プリントだからこそ伝わる
真の写真の価値」を発信し
写真文化のさらなる発展と
心豊かな社会の実現に
貢献し続けます。

フジフィルム スクエアの文化貢献活動は、富士フィルムだけで成し得る活動ではありません。素晴らしい作品を発表して下さった出展者の皆様、そしてご来館いただいた多くの鑑賞者の皆様によって実現できたものと、心より感謝いたします。

出展された方からは「会場で直接来館者と話ができて、また写真展に挑戦しようという意欲が高まった」「データではなくプリントで直に作品を見てもらえて良かった」という声をいただいています。このように、フジフィルム スクエアは、プリントで仕上げられた作品を介して出展者と鑑賞者が直接心を通わせる場となっています。

当社は、これからも、出展者の皆様、鑑賞者の皆様と、真の写真の価値を共有し続け、フジフィルム スクエアの活動等を通じ、写真文化のさらなる発展と心豊かな社会の実現に絶えず貢献します。

施設案内



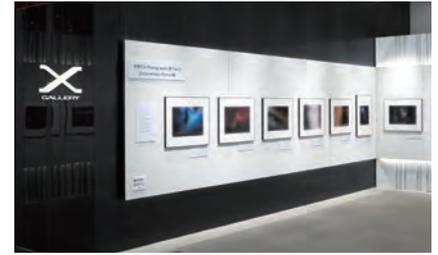
富士フィルムフォトサロン 東京

写真文化の向上と写真の普及に寄与する、クオリティの高いさまざまなジャンルの写真を展示する写真ギャラリーです。プロ・アマを問わず写真の魅力、素晴らしさを表現した作品を厳選し、一週間単位で写真展を開催しております。公募についてはホームページをご覧ください。



写真歴史博物館

貴重なアンティークカメラや富士フィルムの歴代カメラの展示に加え、歴史的に価値のある写真を展示する企画展も定期的で開催しています。写真の文化、カメラの歴史的進化をご覧いただける希少価値の高い博物館です。170年を超える写真文化の変遷をぜひお楽しみください。



ギャラリーX

世界中のプロ写真家が「GFX・Xシリーズ」で撮影して、富士フィルムの高画質プリントで出力した作品を展示します。また、「GFX・Xシリーズ」の魅力により多くの方々に体感していただくための情報発信基地として、プロ写真家によるトークショーやセミナーなどの企画を開催しています。



タッチフジフィルム

デジタルカメラコーナー

富士フィルムのミラーレスデジタルカメラ「GFX・Xシリーズ」、交換レンズなどの最新製品を手にとってご体験いただけます。デザインや操作感、機能性などをじっくりとお楽しみください。



タッチフジフィルム

写真をもっと楽しく！ご提案コーナー

スマートフォンからも簡単にご注文いただけるプリントやフォトブックバリエーションに加え、写真をもっと気軽に飾っていただくための「WALL DECOR」や、写真を使ったオリジナルギフト「PHOTO GOODS」をご紹介します。さらに「チェキ」をはじめとする大人気 instax シリーズをフルラインアップするなど、新しい写真の楽しみ方をご提案していくコーナーです。



ASTALIFT ROPPONGI

フジフィルム ヘルスケアショップ

TVCMでおなじみのスキンケア化粧品「アスタリフト」をはじめ、長年の写真分野の研究開発で培った独自の技術を応用した富士フィルムのスキンケア化粧品・サプリメントを全商品取りそろえています。化粧品やドリンクをお試しいただき、専門スタッフのアドバイスを受けることもできます。当店限定のお得なキャンペーンなども実施しています。



FUJIFILM SQUARE

フジフィルム スクエア

開館時間 10:00～19:00 (入館は18:50まで)

無休(年末年始を除く)

入館無料

〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3

東京ミッドタウン・ウェスト 1F

TEL.03-6271-3350(10:00～18:00)

<http://fujifilmsquare.jp>

都営大江戸線「六本木駅」8番出口と直結

東京メトロ日比谷線「六本木駅」東京ミッドタウン行き地下通路で徒歩4分

東京メトロ千代田線「乃木坂駅」3番出口より徒歩5分

- ・本活動報告書に掲載されている「主要メディア掲載」および「ご来場者数」のデータは自社調査に基づくものです。
- ・「ご来場者数」は写真展期間中のフジフィルム スクエア全体のご来場者数の合計です。
- ・「ご来場者様の声」および「来場者属性」は、2018年度に開催された写真展期間（2018年4月1日から2019年4月3日）に実施された自社アンケート調査に基づくものです。
- ・年間を通じた写真展運営の協力会社は、下記のとおりです。
展示作業：株式会社フレームマン
展示物・告知物制作：富士フィルムイメージングシステムズ株式会社
運営協力：富士フィルムビジネスエキスパート株式会社

フジフィルム スクエア 2018年度 活動報告書

発行日: 2019年6月
発行: 富士フィルム株式会社 宣伝部
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3
発行者: 青木宇雄
編集: 富士フィルム株式会社 宣伝部
デザイン: 株式会社ラジアン
制作: 株式会社ジョーメイ
©富士フィルム株式会社 禁無断転載